

年頭所感

千葉県中小企業団体中央会 会長

坂戸 誠一



新年あけましておめでとうございます。

平成十九年の新春を迎えるにあたり、謹んでご挨拶を申し上げます。

昨年のわが国経済は、マクロ的には、大企業を中心に景気回復・脱デフレ感が強まり、それを裏付けるかのように各経済指標も順調に推移しておりますが、年後半には、堅調であった各指標の中にも弱含みの数値が散見され、公共事業の低迷や個人消費の伸び悩み等不安定な要因を抱え、先行きの不透明さは否定できないものであります。

こうした中で、地域経済の牽引役である中小企業においては、大手企業や一部の企業が享受した景気回

復・脱デフレ感を実感するにはほど遠く、業種・業態を問わず、受注単価の下落や原材料価格の上昇等の不安要因を払拭できず、内面的には、少子高齢化社会の到来による雇用形態の変化や、団塊世代の大量退職等、これまで培った技術を伝承しつつ、後継者を育成しながら経営力の強化を追求しなければならぬ厳しい状況が続いております。

一方、組合組織をみますと、本年四月一日より、自治の範囲拡大による組合経営の自由度を高めることを主眼とした「中小企業等協同組合法等の一部を改正する法律」が施行されることになっており、この法改正

が、組合活動の更なる飛躍をもたらす礎になるものと期待しております。中小企業を取り巻く環境が変化しようとも、わが国が持続的に発展し、豊かで魅力ある社会を築き上げるには、機動性や創造性、柔軟性等を備えた中小企業が活力を持って、事業活動を行うことが重要であり、この厳しい局面においても、時代に適合した企業体質へ転換し、その役割を果たすことが強く求められております。

反面、こうした課題に、限りある

経営資源の中で事業活動に取り組み中小企業が単独で取り組むことは容易なことではなく、組合等を中心とした多様な連携組織を創造し、異なる優れた経営資源を共有し合い、相互に経営補完を行うことが、経営革新や新事業創出に向けた有用な方策として認識されております。

翻って本県においては、県勢発展の根幹は中小企業の活性化が不可欠との観点から、産学官が一体となつて取り組む「中小企業元気戦略」の策定、更には、「千葉県中小企業の振興に関する条例」の制定に向けた取り組み等新たな中小企業施策が実施されようとしております。

本会といたしましても、現況を冷静に受け止め、県下中小企業が環境変化に即応し得る連携組織の構築が出来るよう、ニーズに沿った支援を多面的かつ積極的に展開してまいります。

会員各位におかれましては、相互扶助を基軸として、組織基盤を強化され、ますます発展を遂げられますとともに、新年が皆様方にとりましてより良い年となりますことを心からご祈念申し上げます、年頭のご挨拶といたします。

年頭所感

千葉県 知事

堂本 暁子



新年あけましておめでとうござい
ます。

中小企業団体の皆様には、希望あ
ふれるさわやかな新春をお迎えのこ
とと存じます。

長く低迷していた日本経済も企業
の活発な投資活動が報じられ、戦後
最長の「いざなぎ景気」を超えたと
も言われておりますが、中小企業の
皆様からは、こうした景気回復をな
かなか実感できないとの声を伺って
います。

今年は亥年。亥(いのこ)の字は、
日本では猪を使っていますが、古代

中国では子孫繁栄の象徴とされる豚
を表したものです。ぜひ、景気の閉
塞感を打ち破り、子孫繁栄の豊年にな
って欲しいと思っております。

中小企業の活力は、とりもなおさ
ず千葉県経済の活力です。

中小企業が様々な経営上の課題に
果敢に挑戦し、克服していくことは、
県内経済が活性化し、地域社会が元
気になるうえで極めて重要なことで
す。

このため、中小企業の活性化に向
けた基本的な取組みの方向を示すも
のとして、「中小企業元気戦略」を策
定し、現在、中小企業振興の基本理
念を定めた条例の制定を目指してい
るところです。

今後、皆様と共に力を合わせ、中
小企業の創造、経営革新の促進、産
学官の連携や人材の確保・育成など
各種施策を展開し、地域と中小企業
が共に活性化し続ける好循環を生み
出していきたいと考えています。

また、二十一世紀の本県を支える
主要産業となりうる観光にも力を注
いでまいります。いよいよ二月から
は、日本で最大規模の観光キャン

ペーンである「ちばデステイネー
ションキャンペーン」が始まります。
県内一丸となって豊かな自然の中で
無限の楽しみ方を発見できる千葉の
魅力を全国に発信し、観光を二十一
世紀の新しい産業として発展させ
「観光立県千葉」を実現するための大
きなステップにしていきます。

県としては、今後も、中小企業を
取り巻く環境が大きく変化する中で、
環境変化に即応し、新分野への進出
などに挑戦する中小企業を後押しで
きるような環境づくりに努め、地域
経済の活性化を図ってまいりますの
で、御支援、御協力をお願いいたし
ます。

中小企業の皆様におかれましても、
柔軟な発想と機動力の発揮により、
創造性に富んだ事業を展開され、地
域経済の担い手として、更なる成長、
発展に向け邁進いただきませうようお
願いいたします。

結びに、本年が、皆様にとって、
明るい年となりますよう心から祈念
申し上げます、新年のあいさつといたし
ます。

年頭所感

全国中小企業団体中央会 会長

佐伯 昭雄



新年おめでとうございます。

日本経済は戦後最長の景気回復と云われていますが、地域格差、企業格差などもあり、中小企業の多くはまだその実感がありません。

この様な中で全国中小企業団体中央会は創立五十周年を迎えました。

多くの皆様のご支援、ご協力に対し厚く御礼申し上げます。

昨年は政府系金融機関の改革、とりわけ我々組合に最も関係の深い商工中金の民営化という課題がありました。また、三位一体改革による中小企業連携組織対策事業費補助金の削減や原材料費の高騰など多くの難しい問題があります。

この様な時にこそ、個々の企業では解決できない問題を、組合の団結の力により解決に向け前進させて行かねばなりません。

また今年は地方選挙や参議院議員選挙など我々中小企業にとって重要な選挙の年であります。大きな民意の一つとして中小企業施策の拡充強化が反映される様な選挙になることを願うものであります。

全国中央会も昨年五十周年を迎え今後の一〇〇周年を見据えて、その存在価値を高める必要があります。

そのため継続して常に改革、改善に取り組みと同時に全国の中央会、参加組合の改革、改善にも積極的に支援を申し上げる所存であります。

変化を先取りする覚悟で日々前進する中央会にしなければなりません。今年は皆様方にとって良い年であることを祈念して年頭の挨拶と致します。

平成十九年 元旦

年頭所感

商工中金千葉支店 支店長

中谷 肇



新年明けましておめでとございます。

平素は、当金庫業務につきまして、格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

さて、平成十九年の新春を迎えるにあたり、謹んで年頭のご挨拶を申し上げます。

まず、昨年の我が国経済を振り返ってみますと、輸出の増加、好調な設備投資に支えられて生産も増加し、雇用・所得環境が改善するにつれて、個人消費も回復基調にあります。物価が緩やかに上昇するなか、内外需の均衡の取れた成長が続いており、昨年十一月をもって戦後最長の「いざなぎ景気」の期間を上回っ

たとみられています。

今年の経済情勢を展望しましても、海外経済の成長は緩やかになる見込みですが、個人消費や設備投資などの内需が景気を下支えし、息の長い回復が続くことが期待されています。

そうしたなか、中小企業の皆様の景況感についても、緩やかに改善しつつありますが、地域や業種によるばらつきも目立ち、また、原油や素材材料価格の上昇による採算悪化等もあって、景気回復を全面的に実感できる状況に至っていないと思われ

ます。

このような環境下、商工中金は、中小企業の皆様との長期安定的なリレーションを基本に、「地域の実状を踏まえた再生・活性化」に積極的に取り組んでおりますとともに、経済環境等の変化により一時的に資金繰りに困難をきたしている中小企業の皆様への安定的な資金供給を行う「セーフティネット機能の発揮」、CLO・ABLなど資金調達多様化や新連携・LLP等を活用した企業間連携への取り組みなど「多様な金融サービスの提供」に努め、中小企業の皆様がその企業価値を高め、持続的に成長されることに貢献してま

いりました。

商工中金は、皆様とともに歩ませていただき、おかげさまで昨年十二月に創立七十周年を迎えました。ご案内のとおり、政策金融改革において、商工中金は平成二十年十月には、現在の組織金融機関から特別の法律に基づく株式会社社に改組される予定ですが、「中小企業団体及びその構成員に特化した幅広い金融サービスを展開」する金融機関として、その機能、根幹は維持されることになりました。議論の過程におきまして、皆様方より多大なご支援を賜りましたことを改めて心より御礼申し上げます。

今年は、千葉支店が四月で開設六十周年を迎える節目の年となります。商工中金としましては、これからも中小企業組合と中小企業の皆様のメインバンクとして、より一層信頼される金融機関を目指して、役員一同決意を新たに取り組んでまいります。今後とも、格別のご指導とお引き立てを賜りますようお願い申し上げます。

年頭にあたり、皆様のご繁栄とご健勝をお祈りいたしましてご挨拶いたします。